

心あたたまるオシドロのイラスト

根雨郵便局でマチオモイカレンダー原画展



伊吹春香さん(左)とRIRIPOCCHIさん(右)

2月9日、ゆうちよ銀行が製作しているマチオモイカレンダーの原画展開催セレモニーが、根雨郵便局で開かれました。

これは、同カレンダーの近畿・中国版に、日野町のオシドリが描かれたイラストが掲載されたことを記念して行われたもの。原画展では、色とりどりのオシドリを描いたイラストレーターRIRIPOCCHIさんの作品と、昨年度のカレンダーに掲載された、梨を題材にした伊吹春香さんの作品が展示され、来場者の目を楽しませていました。

地域に目を向ける第一歩

日野郡公設塾まなびや縁側の生徒と町議会との意見交換会



まちづくりについて質問する高校生

2月8日、町役場で、日野郡公設塾まなびや縁側の生徒と、町議会議員との意見交換会が開かれました。

これは、まなびや縁側の特別講座の一環で、高校生たちにまちづくりへの興味・関心を持ってもらうことを目的として企画されたもの。生徒たちは、金持テラスひのの利用者について、町の農業人口を増やすための政策についてなど、さまざまなテーマで質問を行いました。

参加した生徒は、「問題点や課題点が聞けて勉強になった」と、まちづくりに関心を持ついい機会となったようです。

町の特産品を使用したスイーツなどを販売

JK(地元改革)課が日野町の特産品をPR!



3月6日と7日、米子天満屋催事場で「山陰ええもんうまいもの市」が開かれ、日野町の活性化を目的に活動する高校生ボランティアサークルJK(地元改革)課が参加しました。

当日は、町の特産品を使用し、日野高校生が開発した「しいたけパウンドケーキ」や「えごまシフォンケーキ」などを販売。多くの人が訪れ、用意されたスイーツ約400個が完売しました。



▲▶ブースの前を通りかかった人に積極的に声かけ!どの商品も大好評でした。



日本銀行総裁賞を受賞した白迫さん（中央）

「金融と経済を考える」高校生小論文コンクールで特選を受賞

未来の農業への思いを語る

第18回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール（金融広報中央委員会主催）で、日野高校1年の白迫健翔さんが、最も優れた作品に贈られる特選（5編）のうちの一つ「日本銀行総裁賞」を受賞し、2月16日、日野高校で授与式が行われました。

農作物の販売方法について疑問に思うこと、また、自身が目指す自然と共存した農業について書かれた同小論文。白迫さんは、「これからも農業の知識を身に付け、書いたことが実現できるようにがんばりたい」と、今後の意気込みを語りました。



埴田町長に写真集を手渡す松本さん（右）

撮り続けて50年、ふるさととの記録

松本利秋さんが写真集を発行

2月10日、松本利秋さん（秋縄）が、町役場を訪れ、写真集「元氣と幸せ 50年の記録」を寄贈しました。

この写真集は、松本さんが写真を始めて50年の節目として発行したものの。町の自然豊かな風景や人々の暮らし、町に飛来するオシドリなどの写真が収められ、「元氣な子どもたち・幸せに生きる・愛をいつまでも」の3部構成となっています。

「見た人が元氣で、幸せになるようお願いを込めた」と松本さん。写真集は、町図書館にも寄贈されています。ぜひ、手に取ってみてはいかがでしょうか。

ネットトヨタ鳥取が足踏み式消毒スタンドを寄贈

2月4日、ネットトヨタ鳥取株式会社米子日野橋支店（頭本章吾店長）が町役場を訪れ、足踏み式消毒スタンド「しようどく大使」を寄贈しました。

「しようどく大使」は、自動車製造で技術を培ったトヨタ社製の消毒スタンド。コロナ禍で生産が停止した昨年4月から工場の有志が開発に取り組み、「良いものを誰でも使いやすく」という思い



▲手で触れずに消毒液を噴射できるスタンド

ふるさとのことば

～日野弁なんぞかんず～ 第91回

「ぎゅーかく」に考えすぎ！

皆さんは「ぎゅーかく」という方言を「存じですか？」似たような名前の飲食店もあるようですが、日野地域でいう「ぎゅーかく」には、「真面目な」「厳格な」などの意味があります。しかし、どちらかといえば、真面目が過ぎて「杓子定規な」「融通が利かない」「堅苦しい」など、少々「めんどくさい」意味で使われることが多いですね。

さて、「この「ぎゅーかく」、由来を調べてみたのですが、さっぱりわかりません。漢字にすれば、やはり「牛角」かなと思いき、調べてみると、面白いことがわかりました。「牛角」は、「こかく」とも読み、「牛の角のように並び立ち、互いに優劣のないこと」、すなわち「互角」のことだったのです。

思わぬ収穫に膝を打ちましたが、日野版「ぎゅーかく」の語源はわからずじま。あまりぎゅーかくに物事を考え過ぎるからわからなくなるのでしょうか。もっと柔軟な頭脳が欲しい今日このごろ。

協力：日野町歴史民俗資料館友の会